

○保育園見学 実施概要		
実施日	令和 6 年 1 0 月 2 2 日	
参加者	委員	8 名（普光院委員長、渡邊副委員長、三島委員、加藤委員、大前委員、古山委員、田中委員、八木委員）
	事務局	4 名（堤子ども家庭部長、吉田保育施策調整担当課長、黒崎事務所 黒崎氏、松本保育課保育係主任）
見学行程		9:00 市役所本舎出発⇒9:12 さくら保育園着⇒～見学～⇒10:05さくら保育園出発⇒
		10:14 小金井保育園着⇒～見学～⇒11:02 小金井保育園出発⇒11:17 げんきな森保育園着⇒
		～見学～⇒12:07 げんきな森保育園出発⇒12:20 市役所本庁舎着 解散

参加委員の感想
<p>公立保育園は古い園舎での保育という制約条件の中で、地域支援、障害児保育や要支援家庭の支援など、人材力を駆使して頑張っていると思った。</p> <p>本委員会でも公立保育園の機能をさらに広く拡張していく方向で検討しているが、そうであれば、それ相応の人材の確保や施設設備の改善などが行われなければならないと感じた。</p> <p>民間園は、新築の環境の中で、子ども自らの力で育つよう保育士が手をかけすぎないようにしているなど、独自の保育理念を推し進めていたが、子どもの集団が大きく、個別対応が薄くなりがちにも見え、障害児や定型発達ではないお子さんの保育をする環境としては不足する部分があった。</p> <p>民間の施設整備には多額の投資が行われるのに、公立の施設整備には投じられるお金がない。「お財布が違う」という理由で子どもの環境にこれだけの格差が生まれていることについて国全体で再考する必要があると思われた。</p>
<p>二保育園とも地域との係わりについての文書表明があり 一保育園がこの件で、行政への要請があったことが印象的でした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多い年は、6～7割の児童が外国籍のこともあるそうで、保護者とのコミュニケーションに工夫をされていることがよく分かった。外国籍の児童や保護者の日本語でのコミュニケーション能力の差によって、民間園の受け入れ状況に差が出ているのかなど確認が必要と感じた。</li> <li>・乳児クラスの保育者の数が多く、保育者：児童が 2：1 に見られ、加配が必要な児童が多いことが分かった。</li> <li>・支援が必要な児童も一緒に空間に過ごしているため、児童が自然に周りの児童に必要な支援が何かわかり、配慮し助け合うように関わっているように見られた。</li> </ul>

・段階的縮小になり、乳児クラスも一つになったとのことだった。0歳児の受け入れはしていないため、2歳クラスに1歳児が1人入る状況では大きな支障はないであろうが、来年度2歳児が幼児クラスになり、1歳児1人のクラスになった場合、発達に関して予測される懸念などを考慮し、どのような保育計画を立てているのか質問したい。

- ・外国籍の保護者と容易にコミュニケーションが取れるようなツールを導入することが必要と感じた。
- ・きらりとの連携も多いため、スタッフのマンパワーで対応しているが、バーンアウトし一斉退職などが起きないか懸念がある。
- ・コロナ禍になり、荷物の受け入れスペースなど工夫がなされていた。

#### <公立保育園（段階的縮小なし）>

・一時保育が、緊急保育等も含め連日埋まっており、各署への連携が必要な業務が多いことが懸念された。

- ・4歳・5歳クラスの保育者の人数が4名・5名と多く、支援が必要な児童数が多いことが伺われた。
- ・年々、支援が必要な児童が増えているとのことだが、人数の推移を提示していただきたい。
- ・コロナ明けより、地域交流として、児童館へ保育士・栄養士等が出張し相談事業と、保育園内で子育てサロンを開始。地域へ出向いて悩んでる保護者に寄り添い、保育園に足を向けやすくし、子育てサロンで寄り添うように支援しているとのこと。悩みをより自然に打ち明けやすい環境を築き、セーフティーネットとしての役割を果たしていると感じた。

→

・一時保育の受け入れ数や、支援が必要な児童が多いこと、地域交流にて保護者の悩み相談やサロンとしての事業等から、きらりや家庭支援センターとの連携などが多く予想され、通常の保育以外に正規職員の負担が増大していることが伺える。マンパワーで補っているとのことだが、常に欠員が出ている状況では、職員がバーンアウトする可能性も懸念される為、早急に業務の効率化と発達支援に対する相談・連携の仕組み作りが必要と感じた。

#### <民間園>

- ・ハード面が充実しており、玄関内にベビーカーごと入れるスペースや自転車用のヘルメット等を置くスペースなどがあり室内に余計な荷物を運ばないような工夫がなされていた。
- ・乳児（0～1歳）・幼児（2～5歳）の異年齢クラスで各一クラスずつのクラス割で特色ある保育を行っていた。
- ・児童の自主性を重んじた保育指針があり、民間保育園ならではの特色ある保育が行われていると感じた。
- ・加配が必要な障害児の受け入れは、現状、整っていないため行っていない。
- ・預かり児童の保育の安全を優先し、行える範囲で支援が必要な児童の受け入れを行っているとのこと。

全体を通して、公立保育園では、発達支援、医療的ケア、外国籍によるコミュニケーションに困難さを抱える児童が多いことが窺えた。支援が必要な児童に対し、園より、市に会計年度職員を依頼しスタッフの増員を図っているとのことだが、発達支援や医療的ケアには、保育以外の知識も必要であり、それらを担うスタッフを会計年度職員でその都度増員するのは困難であることが伺われる。また、他言語・多言語・他の文化背景がある児・保護者が多い場合、コミュニケーションに時間を要することも想定される為、コミュニケーションを取りやすいツールを導入することや、スタッフの増員が必要である。公立保育園の果たす役割として、現状、セーフティーネットとしての大きな役割に堪えていることがわかった。職員の工夫とマンパワーで対応しているとのことだが、職員への負担が大きく改善が必要な喫緊の課題であると感じた。

きらりへの通所申し込みをしても、待機人数が多く通所できていない児童も多いとのことなので、通所申込人数の推移を提示してほしい。

民間保育園の特色ある保育が、支援が必要な児童に適した保育環境と合致するわけではないため、民間保育園で支援が必要な児を積極的に受け入れている園には、発達支援が必要な児へのかかわり方など、定期的に研修を行うなど、民間園での受け入れを増やしていく工夫が必要と感じた。

また、障害児通所サービスの利用者数が、2014年から2019年までに2.8倍増加しており、未診断・未支援の児童がいることも考慮すると更なる支援が必要な状況である。

公立保育園を基幹園として、ハブとなる子ども支援センターなるものを設置して、きらり（発達支援）と公立・民間園との連携、医療的ケア児の受け入れモデル・共有、民間園を含む研修プログラムの実施など仕組みづくりが必要と感じた。

今回受け入れをしてくださった各園の皆様、また調整をしてくださった保育課の皆様に心よりお礼申し上げます。

特に民間園として園見学対応をしてくださったげんきな森保育園の皆様に感謝申し上げます。

・段階的縮小対象公立保育園

段階的縮小により空いた部屋の活用、またクラス編成（乳児異年齢クラス）等、先生方の様々な工夫と努力が伝わってきました。

・公立保育園（2園）

小金井市の質の高い保育スタンダードを見ることができました。

一時預かりや地域の在宅育児支援、きらり等関係各機関との連携、要配慮児童対応等…

公立保育園として期待されている役割が具体的にどのように取り組まれているのかを知ることができました。

・民間保育園

工夫された園舎、また大胆な保育方針と保育実践がとても新鮮でした。

やはり運営母体の違いにより個性が出せることは民間の強みであり魅力であると感じました。

・全体

市直営として小金井市の保育のスタンダードを実践する公立保育園と保育の個性が前面に出る民間保育園のベストミックスが理想的であると感じました。

個性的な民間のみに偏った場合、その保育方針によっては、そのエリアにおいて障がい児や要配慮家庭の児童、要配慮児童等の受け皿がなくなるリスクがあることを知りました。

各地域に必要な児童福祉が行き渡るように、民間の個性を生かすためにもスタンダードである公立保育園をバランスよく配置することは行政の責任ではないでしょうか。

■提案

事前資料を確認いたしました。

資料26 小金井市立保育園の役割（存在意義の考え方と整理）（素案）について追記の提案です。

- ・ 特性を公立保育園と小金井市・小金井市立保育園の特性を一つにまとめ、タイトルを後者とする。
- ・ 特性に下記3点の追加
  - 小金井市の保育のスタンダードを継続的に実践されていること
  - 利用者の保護者満足度が非常に高いこと（運協アンケートより） ※民間との比較ではありません
  - 市立保育園5園あることで、保育士の人材育成、保育園間が協働し連携がとれていること
- ・ <<役割の整理>> 地域の保育の質の維持・向上 を促す役割の実施内容に下記追加
  - 小金井市のスタンダードな保育の継続的な実践
  - 小金井市の中核的な機能を担う
  - ※他の役割と比較し、非常に抽象的な一文のみというのが気になっています。